

3 年 B 組 社会科 単元設計・学習指導案

指導者 江角 紀行

1 日時（場所） 7 月 7 日（火） 11:20～12:10（特 1 教室）

2 単元設計（単元名：第二次世界大戦と人類への惨禍）

(1) 本単元で育成したい自立と共生の力

○よりよい社会や自分の姿を思い描く力の育成

(2) 単元目標

○第二次世界大戦と人類への惨禍などについて理解することができる。 「知識及び技能」

○経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けたり、近代の日本と世界を大観したりして、近代の社会の変化の様子や時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

「思考力・判断力・表現力等」

○近代の日本と世界について、国際平和の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(3) 重点目標

＜本質的な問い＞

繰り返された世界大戦を次に起こさせないためには、どのようなことが必要だろう。

＜永続的な理解＞

世界恐慌による世界的な経済の混乱や社会問題の発生、ファシズムの台頭、世界の動きと我が国の動きなど、多様な事象が複雑に絡み合い、第一次世界大戦の反省は生かされず第二次世界大戦が勃発し、人類に惨禍を及ぼした。現在も新型コロナウイルスの影響による不況が世界中に広がっていたり、核ミサイル保有国が拡大したりするなど、危険な要因は多く点在している。自国優先ではなく国際協調の精神を各国が重視し、国民も自国や世界の政治や経済の状況を注視し、平和な国家や国際社会形成のために関わっていこうとすることが大切である。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と第二次世界大戦と人類への惨禍などについて理解している。	①経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	近代の日本と世界について、よりよい国際平和の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(5) 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたは歴史研究者です。今回、Aテレビ局から終戦記念日の8月15日に放送される特別番組「3回目の世界大戦を起こさないためには？」への出演依頼が来ました。番組プロデューサーは、「この番組は、戦争経験者が年々減少する中、特に今後の時代の担い手となる若者世代に向けて発信したいと考えています。そこで、まず前半では、なぜ第二次世界大戦が起こったのかという理由について議論していただきます。そして、後半では3回目の世界大戦が勃発する確率を世界の現状の分析を基に説明していただき、最後に勃発させないために今後、私たちに必要なことについて主張していただきます。」と説明しました。みなさんは、この番組で何を語りますか？	○観察 ○ワークシートへの記述 ○ロイロノートへの記述

＜パフォーマンス課題についての予備的ルーブリック＞

	知識・技能	思考・判断・表現
A	○B評価の基準を満たした上で、軍部の台頭から戦争までの経過と第二次世界大戦と人類への惨禍などについて多面的・多角的に理解することができている。	○B評価の基準を満たした上で、第二次世界大戦が起こった理由や今後、世界平和のために私たちに必要なことについて多面的・多角的に考察し、表現することができている。
B	○経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と第二次世界大戦と人類への惨禍などについて理解することができている。	○第二次世界大戦が起こった理由について、第一次世界大戦後の世界の政治・経済の動きや変化、我が国への影響などの中から考え、それを踏まえながら、今後、世界平和のために私たちに必要なことについて論理的に考察し、表現することができている。
C	○軍部の台頭から戦争までの経過と第二次世界大戦と人類への惨禍などについて理解することができていない。	○第二次世界大戦が起こった理由や今後、私たちに必要なことについて、論理的に考察し、表現することができていない。

(8) 指導計画（全 14 時間） ※ここでは、発展学習にあたる三次の指導計画を示す。

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
11	・ロイロノートを活用して、第二次世界大戦の背景を熟考したり、現在の世界や国内情勢から第三次世界大戦が起こる可能性を未来予測したりして、学習したことを実社会に生かそうとする。	思 主		・既習事項を基に、ロイロノートを活用して第二次世界大戦勃発の理由を多面的・多角的に考察している。 （ロイロノートのカード） ・過去のできごとの因果関係を生かして、現在を見つめ直し、未来の社会を予測している。 （ロイロノートのカード）
12	・グループで自分の結論を発表し合い、結論の妥当性について議論し、自分の意見を調整する。	主		・妥当性に関する仲間からの意見や仲間の発表内容から、自分の結論をよりよいものに調整している。（ロイロノートのカード）
13 本 時	・学級全体で、各グループでの結論を発表し合い、相互に三つの視点から妥当性について議論し、自分の意見を調整する。	思 主	○	・第二次世界大戦勃発の理由や現代社会の特色を多面的・多角的に捉え、事象同士を関連付けて考察している。 （ロイロノートのカード） ・多様な意見から分析や検討を繰り返し、最適解を目指して自己調整しようとしている。 （ロイロノートのカード）
14	・パフォーマンス課題に取り組み、軍部の台頭から戦争までの経過や第二次世界大戦と人類への惨禍などを踏まえながら第二次世界大戦勃発の理由について考察したり、大戦の反省から第三次世界大戦を起こさないために必要なことを考えたりして、世界平和を希求しようとする。	知 思	○ ○	・パフォーマンス評価 ・パフォーマンス評価

3 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級は、予習に真面目に取り組み、進んで発表する生徒が多い。また、普段から小集団やペア学習で自分の意見を述べたり、他者の意見を聞いたりして意見交換することができる。一方、「単元全体を見通したまとめのワークシート」中に設けている、授業ごとの「自分の学びの振り返り」の項目には、学習問題への追究に関して分かったことは多く記述されているものの、他者から獲得した学びはほとんど記載されていない。これは、他者との意見交換や全体での発表の中に豊富な情報やスキルが存在しているにも関わらず、自分の中に取り込まれず、新たな知が創造されていないことになる。多様な他者と協働学習者としての自覚を持たせ、共に課題解決することの意義を感じさせたり、相手の意見を尊重する態度を養ったりして、他者の意見が自分の考えを深める上で有効であることを実感させたい。

(2) 単元について

本単元は、19 世紀ごろから 20 世紀前半までの我が国の歴史を扱い、我が国の近代の特色を、

18 世紀ごろの世界の動きとの関連を踏まえながら課題を追究したりする活動を通して学習することをねらいとしている。この項目は、さらに六つの小単元から構成されており、本実践である「第二次世界大戦と人類への惨禍」では、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することを通して、軍部の台頭から戦争までの経過と大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解することをねらいとしている。この大戦により多大な惨禍を他国に与えるとともに、世界で唯一原子爆弾の被爆を経験した我が国として、将来、社会の担い手となる生徒に国際協調と国際平和の実現に努めることの大切さに気付かせる上で有意義な単元である。

(3) 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

ア 教材とのつながり

歴史学習の目的は、過去から学び、人類が生存していくための手掛かりを得ることである。それを生徒に実感させるために、生徒が歴史認識を深めていけるような工夫を行う。

教材への深い理解の条件の一つは、社会的な見方・考え方を働かせながら、社会的事象を多面的・多角的に捉えることである。今回は、「近代の日本と世界」学習後の発展学習として、第二次世界大戦勃発の最大の理由を考察することから、現代社会を捉え直し、第三次世界大戦勃発の確率を未来予測させる。そして、その学習過程の視座として「改訂版タキソノミー」(以下、「改訂版」と略す)を活用する。「改訂版」とは、ブルームらにより開発された「教育目標の分類学」の認知領域を改良し、教育目標を四つの知識次元(「事實的知識」・「概念的知識」・「手続的知識」・「メタ認知的知識」)と6段階の認知過程次元(「記憶する」・「理解する」・「応用する」・「分析する」・「評価する」・「創造する」)に分類したものである。教師は目標の明確化により目標の意味内容を深く理解することができ、指導や評価方法の基盤として用いて意図的に知識の側面と認知過程の側面の発展を図ることができる。また、追究には「ロイロノート」を活用し、思考ツールを基に思考したり、素早く意見を集約したりして、考えを深めさせる。このように、構造的かつ効率的な学習展開を通して、生徒の深い理解を目指す。

イ 多様な他者とのつながり

生徒が自他の意見をより公正に判断していくために、他者との議論を活性化させる工夫をする。議論を通して身に付く力には、次の三つの力が考えられる。「自己の考えを調整・深化させる力」、「多様な考えを基に他者とよりよい考えを導き出す力」、「人間関係の調整力」である。そして、その議論の活性化の重要な鍵となるのが「対立と合意」である。そこで、単元を通して習得した学びを基に、個人で考察した第二次世界大戦勃発の最大の理由と第三次世界大戦勃発の確率を、「引用した事実の妥当性」「事実に対する解釈の妥当性」「主張と理由付けとの妥当性」の三つの視点から検討し合い、自己の考えを調整・深化させる。次に、それらの多様な意見を基に、グループ内の対立した考えを調整し、よりよい考えを創造させる。さらに、学級全体でグループごとに発表し、三つの視点から練り合わせることで、自分たちの主張や根拠を補強し、より確かな意見を判断させる。そして、学級全体での議論を通して、新たに習得した知識や技能、視点等を活用して、自分の意見を公正な判断に基づく最適解に向けて修正し、深い理解へ促していく。

ウ 自分自身とのつながり

毎時間の授業や単元全体を通した学びの成長や力の高まりを、生徒にメタ認知させることが重要であると考え。そのため、「振り返り」の活動の充実を図る。「単元全体を見通したまとめのワークシート」中に「自分の学びの振り返り」の項目を設け、授業が終了するごとに新たな気付きや理解したことを記入し、達成感を自覚するとともに、次の学習活動への意欲や見通しを持たせる。また、生徒は自分自身の成長を実感すると「自己有能感」を感じ、学習活動に対する自分の姿を肯定的に捉え学習への意欲を喚起する。そこで、「単元全体を見通したまとめのワークシート」中に、「単元を貫く学習問題への予想」の項目を設け、単元開始前に既習事項や経験を基に予想を記入させる。そして、単元終了後に「単元を貫く学習問題への答え」の項目に、自らの学びを丁寧に見つめ直し、そこでの様々な情報としての知識を関連付けて、新たな知識として記入させる。その後の発展学習でも、第二次世界大戦勃発の最大の理由と第三次世界大戦勃発の確率について、自分自身で作成した第1案と他者との議論を通して作成した最終案を比較し、活動における自己の変容に気付かせ、自分自身に対する有能感を感じ、次の単元でも最適解を求めて追究し続けようとする態度の涵養を目指す。

4 本時の指導（13／14 時間）

(1) 主題 全体発表の場での議論を通して、自分の結論をよりよいものにしよう。

(2) ねらい

○意見の妥当性に関する議論を通して、第二次世界大戦勃発や第三次世界大戦がおこる可能性の根拠について多面的・多角的に捉え、事象同士を関連付けて考察することができる。

○自分たちのグループの妥当性について、他グループからの意見や他グループの発表内容を基に分析や検討を繰り返し、自分の結論をより公正な判断に調整することができる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 これまでの活動と 本日の活動の流れ を確認する。(全体)	5	○これまでの活動と本日の授業の流れを確認しよう。 ・各グループの意見を発表して、お互いに妥当性に関する議論をするんだな。	○これまでの学習を振り返らせ、本日の授業の流れの説明で、生徒に見通しを持たせる。
2 グループの意見を 発表し合い、お互い に発表内容について、 妥当性を検討し、意見 を出し合う。 (4班1グループ×2)	20 (1G10分 ×2)	○第二次世界大戦勃発の「最大の理由」は何だろう。 また、第三次世界大戦勃発の確率は「何％」だろう。 事実に基づいて発表しよう。 ・「ベルサイユ条約」だと思う。この条約で敗戦国ドイツに対して多額の賠償金が課せられ、その後ドイツの社会が混乱に陥ってヒトラーの登場につながったから。「50％」だと思う。現在も北朝鮮をはじめ独裁的な政治を行っている国があるから。 ・「世界恐慌」だと思う。この経済不況の影響は世界中に広がり、イタリアやドイツ、日本などのファシズム化を引き起こしたから。「70％」だと思う。現在も新型コロナウイルスの影響で経済不況が世界中に広がっていて、似た状況が起こっているから。 ○各グループの発表内容を、「主張との妥当性」「事実の妥当性」「解釈の妥当性」の三つの視点から検討し、意見を出し合おう。 ・このグループが取り上げている五・四運動は、勃発の理由としては関係性が薄いのではないかな。 ・このグループの世界恐慌の解釈は、ドイツの立場から見た一面的な考えになっていて、必ずしもそのように言えないのではないかな。 ・このグループの「80％」という主張の根拠としている国家間の経済格差だけでは、そこまで高いと判断できないのではないかな。	○論理的な思考を促すために、三角ロジックに根拠となる事実や解釈、主張を記入させ、結論に至ったプロセスを提示させながら発表させる。 ○各グループの発表内容を三つの視点から検討させ、第二次世界大戦勃発の理由や現代社会の特色を多面的・多角的に捉えさせる。 ◎第二次世界大戦勃発の理由や現代社会の特色を多面的・多角的に捉え、事象同士を関連付けて考察している。 (ロイロノートのカード)
3 これまでの学習を 振り返り、自分自身 の主張の最終案を考え、 発表する。(個人)	25	○これまでの学習を振り返り、最終案を完成させよう。 ・他グループの発表内容を聞いて、世界平和を構築するための世界の国々によるシステムの欠如が最大の原因だと考えるようになった。 ・主張は変わらないが、他グループの意見を聞いて世界恐慌による影響で日本の視点からの解釈がなかったことに気付いたので新たな視点を追加したい。 ・他グループからの指摘で、日独伊三国同盟も関係しているという事実が見付かったので追加したい。	○公正な判断に基づく最適解にさせるために、これまで習得した知識や解釈の視点などの分析や検討をさせる。 ◎多様な意見から分析や検討を繰り返し、生徒が最適解を目指して自己調整しようとしている。 (ロイロノートのカード)
授業研究の視点		○生徒が議論を通して、公正な判断に向けて三つの視点から分析や検討を繰り返すことは、思考を深める上で有効であったか。 ○グループ内発表会や他グループとの発表会を基に、生徒が最終案を作成し第1案と比較する活動は、生徒の自己有能感の涵養に有効であったか。	